

特別支援教育だより

ほほ笑み便り

NO. 1



令和2年6月8日
杉並区立八成小学校

特別支援教育だより「ほほ笑み便り」では、八成小学校が特別支援教育として取り組んでいることやお子さんの行動理解・子育てのヒント等についてお知らせをしております。かけがえのないお子さん一人一人の成長に向けて、これを一つのきっかけに家庭と地域と学校が協力していければと願っております。今回は「はちなり教室」について紹介をします。

「はちなり教室」ってどんなところ？

平成30年度八成小に特別支援教室である「はちなり教室」が設置され、今年度で3年目を迎えました。では、はちなり教室とは、どのようなことを学ぶ場なのでしょうか。

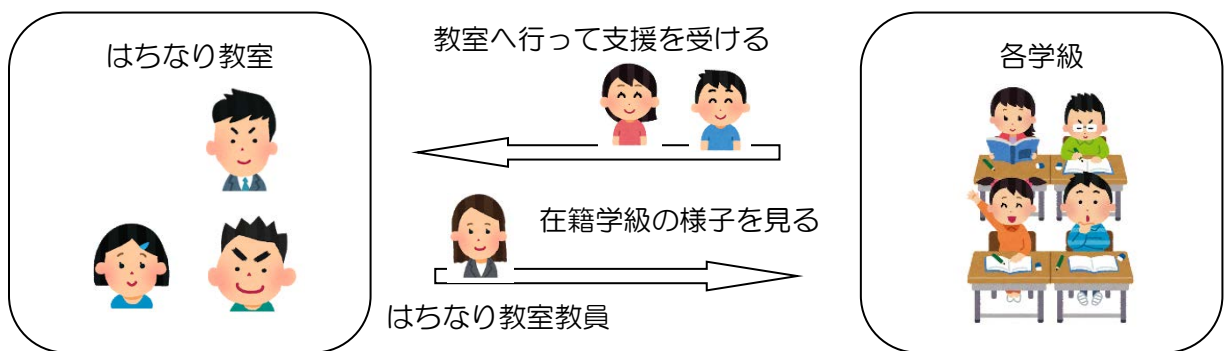
ピアノやサッカーが上手になりたい子には、ピアノ教室やサッカー教室があります。同じように、「友達と仲良く活動したい。」「学びやすい方法で勉強がしたい。」というお子さんの意欲や願いをサポートする場が「はちなり教室」です。苦手なことを訓練する場ではありません。在籍学級で学ぶために、友達との関わり方や、認知の特性を生かした学び方をサポートすることを目的としています。

お子さんの「できる!」「分かった!」「楽しい!」を増やしなが、在籍学級で学習、生活する力を育み、よりよい成長・発達を促します。

はちなり教室の年間指導曜日は右表の通りです。

教室指導曜日	月曜日	木曜日
午前	○	○ (1・2校時のみ)
午後	○	

お子さんは週に数時間、はちなり教室での指導・支援を受けます。各学級に授業の様子を観察に行き、在籍学級担任とはちなり教室担当が連携を取って指導に生かしていきます。



裏面には、はちなり教室の利用の仕方や学習内容、昨年度の実践例をいくつか紹介してあります。

はちなり教室についてご質問がございましたら、以下の連絡先までご連絡ください。

連絡先

特別支援教育コーディネーター 1-3担任 池田 03-3399-3138 (学校代表)

特別支援教育コーディネーター はちなり教室担当 武井 03-3399-3181 (はちなり教室直通)

利用の仕方について

在籍学級での集団生活につまりきや困り感を感じられる場合、まずは在籍学級担任へご相談ください。相談を通して、はちなり教室の利用が望ましいか考えていきます。

ずっと利用するの？

在籍学級での学習や生活が落ち着いてきたら、特別支援教室での指導回数を減らしていき「退室」を目指します。また、「利用しなければならない場所」ではなく、お子さんの様子に応じて利用方法や回数を調整することができます。相談をしながら、お子さんに合った利用方法を考えていきます。

以下は指導内容の例と昨年度の実践例です。

コミュニケーション

子供同士の関わりを重視しながら、コミュニケーションの促進を図ります。自分の思いを言葉にして相手に伝えたり、表情や会話の文脈から相手の考えを想像したりすることを通して、よりよい自己表現や友達との良好な関わり方を学んでいきます。

お子さんの様子に応じて、以下の内容からよりよい教材や学習場面を設定していきます。

- 言葉で説明する、交渉する
- 集中し続ける
- 全体の状況を感じ取り判断する
- 協力や合わせる楽しさを味わう
- 勝ち負けの結果だけではなく過程そのものを楽しむ
- 相手の表情に着目し気持ちを考える
- 質問をする
- 話者に意識を向けて聞く



認知の学習

必要に応じて、お子さんの学び方の特性を探り、学びやすい方法での学習を進めていきます。学習の土台となる認知機能を高めることが目的です。

- 文字の読み書き
- 目の使い方（ビジョントレーニング）
- 語彙を増やして理解する
- 聞いたことをイメージする、記憶する
- 筆圧や手首の柔軟さ、手先の巧緻性を高める
- 数量感覚を養う など・・・



「勝つこと」にこだわりがある場合、勝敗のある活動を段階的に取り入れながら指導していきます。自分が負けそうになると途中で不機嫌になっていた子も、負けても勝っても楽しめる経験を繰り返したことで、最後まで参加することができました。「できないと思っていたけれど、最後はできて嬉しかった。」と感想を発表することが増えました。苦手としていた内容にも、「これをやってみたい！」と自分から積極的にチャレンジするようになっていきます。

教員側の支援

- 勝敗を調整する
- 適切な難易度のものを選択
- 気持ちの切り替えの支援



教員側の支援

- 折り合いの付け方を提示する
- 考えを言葉にして伝える支援
- 話し合いを整理してまとめるサポート



「折り合いを付ける」ことに課題がある場合、意見が対立する場面を意図的に設定します。「フレンドリータイム」では、子供たちから意見を出させて、話し合いを通して活動内容を決定します。ここで活躍するのが、ボードゲーム等の教材です。それぞれの子がやりたい理由を伝えながら、意見の違いに気づき、譲ったり譲られたりすることを実際の場面で経験していきます。経験を重ねるうちに、「今回は僕が譲るよ。」「次は僕が譲るね。」と自主的に折り合いを付けながら、活動を進める姿が増えてきました。

※ 健康面に配慮しながら、3密にならないような内容で指導を行っていきます。